



前席、北村院長と佐々木総看護師長。
後ろは、西和賀町健康福祉課の保健師さん達。



西和賀町栄養士連絡会が「減塩レシピ」を提供。

農業まつりに参加しました

町立西和賀さわうち病院 院長 北村道彦

当院は基本的な方針として、「地域に開かれた病院」を目指しています。その活動の一環として、去る10月22日（土）に西和賀町の『農業まつり』に初めて参加いたしました。西和賀町健康福祉課とともに、JAの2階の一室をお借りして、保健師さんが血圧測定や血管年齢測定をする傍らで、佐々木真須子総看護師長とともに健康相談を行いました。MRIの説明のパネルも並べました。県立大学の学生さんも応援に来てくれました。晴天に恵まれ、多くの参加者があり、屋外のイベントが多く、‘花や団子’の方に流れて、健康コーナーまで来てくれるか心配でしたが、予想以上に来室者が多く、自分の健康に関心を持つ方が多いことを実感しました。特に男性の参加者が多く感じました。また、隣の部屋では、昨年に引き続き、西和賀町の栄養士連絡会が「減塩レシピ」を提供しており、頼もしく感じました。これからも地域とともに歩む病院を目指す所存です。

接遇講演会に院外から多数の参加

10/6、当院の患者支援接遇向上委員会の主催で、恒例の岩手介護労働安定センターの出前講座を開催しました。今年は「メンタルヘルス ～セルフケア～」という演題で昨年に引き続き、今松明子先生に講演していただきました。昨年同様、大変パワフルな講演で「アプレイザル（ストレッサーをどう評価するか、どう受けとめるか認知の仕方）を意識しよう」という大変興味深い内容でした。

当日は16時からの早い時間の開催にも関わらず、当院以外の町内の4つの医療福祉機関から多数の参加がありました。

今後も地域に発信していきたいと考えております。



今松明子先生の講演会の様子。昨年に引き続き、今年も大変パワフルでした。

感染予防の勉強会を開催

町立西和賀さわうち病院
副総看護師長 佐藤 美香



町内の介護事業所の職員を対象に、感染対策について話しました。



専用ローションを汚れに見立てて塗り、手洗い後、特殊ライトの下に手をかざすと洗い残しが光ります。

9月13日に第1回サービス事業所交換会で感染対策について、手指衛生の実践を交えて勉強会を行いました。そこで話した内容について報告します。

今は、「医療関連感染」という言葉で病院だけでなく、介護施設・診療所・在宅も感染対策をしなければならないと言われており、厚生労働省から「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」も出されています。

感染対策で重要なことは、第1に手指衛生、次に个人防护具となります。手指衛生には石けんを用いた手洗いと擦式アルコール製剤による手指衛生があります。1ケア1手洗いとなり、目に見える汚れがある場合は石けんを使用する、それ以外の時は擦式アルコール製剤で手指衛生を行います。実践ではハンドソープで手の「おもてうら、さきとあいだと、おやてくび」を合言葉に手洗いチェッカーを用いて行いました。普段より丁寧に洗ったにもかかわらず、洗い残しがありました。擦式アルコール製剤では手順を確認しながらおこない、また、个人防护具の正しい着脱方法も実践しました。まずは、職員が伝播の原因にならないようにすることが大切です。これら対策はお金がかかると敬遠されがちですが、利用者・患者はもちろんのこと、自分（職員）を守ることであります。

集団で過ごすことが多い場所で、「感染症を持ち込まない、感染症を起こさない、感染症を広げない」ためにみんなで感染対策をしっかりと行っていけるように学びました。

編集後記

日頃より、患者さんの支援には地域と多職種との連携が重要だと感じています。少し前に、訪問看護をしている男性の末期癌の患者さんから、「口の中が苦く食事が出来ない。」と訴えがありました。そこで当院の歯科に相談し口腔清掃を実施したところ、食事が可能になりました。

また、増薬してから「口の中が渋い、渋柿を食べているようで食事ができません。」と訴えがありました。調剤薬局に相談し、何かいい方法がないか現在調べてもらっています。

連携して支援ができることは、大変心強いです。チームで関われば解決できる事を学びました。地域の医療福祉関係の皆様、今後ともよろしく願います。

訪問看護担当 看護師長
高橋 敬子

町立西和賀さわうち病院 医療福祉連携室担当 高橋 豊宏

〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12

TEL:0197-85-3131 FAX:0197-85-3133(直通) toyohiro1410@town.nishiwaga.lg.jp